



としょえもん

一学校図書館サポートだより 第4号 (通巻12号)

一筋の光から大きな光へと

～3年間を経た学校図書館サポート事業～

八王子市教育センター 館長 石垣 繁雄

学校図書館サポート事業が展開され早や3年がたとうとし、「としょえもん」も12号の発行になりました。日の当たらない学校図書館を何とかしようという一筋の光をあてたところ今では大きな光となつつあります。これもひとえに担当者の地道な努力の積み重ねと各学校の関係者の活動のお蔭と感謝いたしております。

重点校方式による69校への支援、司書教諭をはじめ図書ボランティアの方々まで、数多くの様々な研修を通しての連携の結果と思います。また、全図書へのバーコード化による学校図書館システムの構築、背ラベルの整備、そして学校図書館サポーターの巡回指導や派遣などさらに学校図書館の充実への道を歩みつつあります。そうした中で、今後の課題もはっきりしてきました。

まずは、貸出しシステムの導入です。これにより、図書の貸出しが増大すると考えられます。貸出し作業の軽減や図書関係に関する統計がしつ



かり把握でき、図書事業の次への展開が読みやすくなるのが確実です。ぜひ早期に実現したい課題です。

次に、読書推進担当の活動です。派遣校数や役割がまだ手探り状況です。学校間の違いが大きく、求められる活動内容にも多様さが求められます。基本的には司書教諭と連携し先生方の読書指導を支援し学校図書館の管理を指導・助言することにあります。ぜひ目先の効果ではなく、長い目での連携をしていくことを期待します。

最後になりますが、重点校の支援はあと2年続きます。『としょえもん』には「学校図書館活用重点校紹介」欄があり、特色ある活動等が紹介されています。ぜひこれらも参考にしながら活動内容を工夫し、児童・生徒が親しめる図書館づくりに一丸となって頑張りましょう。将来は、もしかしてお年寄りや幼児をもつお母さんも一緒に学校図書館で本を読んでいたたりして…(夢の途中)。次世代を担う子供たちの健全な成長を祈って！

平成24年度の学校図書館サポート事業トピックス

■ 学校図書館活用重点校支援

5ヵ年計画の3年目が経過し、小学校は70校中46校、中学校は38校中23校が巡回支援を終了。残りの計39校には25年度か26年度のいずれかに巡回支援を行う予定で、現在25年度指定校を検討中。指定校終了後のフォローも視野に入れて4年目を迎えたい。

■ 学校図書館サポーターの学校派遣始まる

24年9月から学校図書館サポーター(読書推進担当)が、17の小中学校に派遣され各校の実情に見合った読書促進が図られた。教員と協働した授業作りが模索された中で、その成果が期待される。次年度のサポーターは若干の増員が見込まれている。

■ 図書整備の充実

<蔵書検索> 自校および他校の蔵書状況が学校の図書館端末で検索可能になる。また市立図書館の学校図書館専用ページから、学校貸出し用図書の検索・予約も可能に。業者のポータルサイトも併用することで授業に使える本が探しやすくなった。各校での活用促進を期待したい。

平成24年度 研修会報告

第三回 学校図書館読書指導員研修会 事例発表会

平成25年1月23日(水) 10時～12時 教育センターにて

今年度も4校の学校図書館読書指導員・図書ボランティアの皆さんにその活動について発表していただきました。どの学校もパワーポイントを使い、写真など視覚的な情報を工夫して具体的でとてもわかりやすい発表でした。内容の一部を紹介します。

スライドは会場のモニターにも映し、皆さんには見やすい工夫もしました。

【第八小学校】



平成23年度PTA本部に担当を置き、組織作りを開始。子どもたちが本に興味をもつよう図書室に名前を付ける、イメージキャラクター「はちすけ」を誕生させる、本の整理や紹介コーナー作りなどを行う。今年度ボランティアは13名になる。年間活動計画を作り、使いやすい図書室をめざして本の整理、POP作り、紹介コーナーの充実などを行う。子どもたちからは本が見付けやすくなり本を読んでみようと思った、図書の時間が楽しくなったという声が寄せられるようになった。



【松枝小学校】

平成17年「松枝りいでいんぐくらぶ」を結成、読み聞かせやおはなし会、飾りつけなどを行ってきた。今年度図書室の配置がえや本の紹介コーナー、装飾、読み聞かせ・リラックススペース作り、修理講習、紙芝居製作などに取り組む。課題は、教職員とのコミュニケーションや人の確保だが、「継続すること、諦めず無理をしない」をモットーに、人とのつながりを大切に仲間集めをして活動していく。

【石川中学校】

平成16年度学校の依頼により3名で週2日、放課後の図書委員の貸出支援を行う。その後、夏休みの掃除、寄贈本の受け入れ、書架整理、見出し札作りなど活動が広がる。今年度13名で今までの活動に加え、学級文庫の選書、新着図書リストの作成、除籍本や複本の整理、ウエルカムボードや返却ボックスの設置、POP作りなどを行う。今後も運営は連絡係として代表者を決め、年度の最初と最後に顔合わせ、メールや活動ノート・連絡ボックスで連絡をとって活動していきたい。

【松木中学校】

30名がPTAの学校生活サポーターの一つとして活動。重点校を機会に、図書館整備サポートを楽しく行っている。当面の課題は本の並べ方・配架順ということで、夏休み中に作業を実施、先生・生徒・サポーター40名で並べ替え作業を行った。先生・生徒・サポーターが一体になって作業、明るい図書室になった。その後見出し札や開館案内ボードの作製、廊下掲示板の整備、新着本展示などに取り組んだ。

来年度以降も無理のない息の長い活動を続けたい



会場内に展示した重点校の写真パネル



ステップアップ 研修会

平成25年2月20日(水)
10時～12時
教育センターにて

学校図書館読書指導員研修会に6回以上参加された読書指導員や図書ボランティアの皆さんを対象にステップアップ研修会を開催。今年度は、パネルシアターの実演を行ないました。「ピンポンパネル」(代表 折笠みとしさん)のメンバー4名の方に講師をお願いしました。

まずは白いパネルを使い、明るい所で演じる「ホワイトパネルシアター」。歌や手遊び、音楽を交えながら、「パンパンサンド」「たこ焼きパクッ!」「たのきゅうと大蛇」「おはなしなあに」「手のひらを太陽に」が演じられました。後半は、部屋を暗くし、黒いパネルを使った「ブラックパネルシアター」。「きれいなお窓」「おばけちゃん」「青い鳥」「誰かが星を見ていた」の演目でした。蛍光色に反応する特殊な光を使って登場するものを際立たせる演出は、とてもきれいで、お話の世界に引き込まれました。

講師と受講者の方が一体となって歌ったり、手遊びをしたり、シーンと聞き入ったり、しばし時間を忘れての楽しい2時間でした。



テンポよい語り口で
お話が進んでいきます。

学校図書館活用重点校紹介 ～ その4～

平成24年度重点校22校の図書館を順番に紹介してきました。

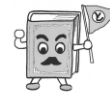


<p>松枝小学校</p>			<p>左：読み聞かせ、リラックススペースを作るために、ビニール紐を使って広さを検討中。 右：整備完了後の様子。カラーマットが入り、手作りの書架が並び、子どもたちの人気のコーナーができました。</p>
<p>南大沢小学校</p>			<p>左：大学生のボランティアが作った昔話の壁面飾りを貼っています。教職員、図書ボランティアさん総動員で夏休みの図書館整備作業も行いました。 右：ブックコート（フィルム）かけの講習中。</p>
<p>ひよどり山中学校</p>			<p>左：夏休みを使って、先生と図書委員で書架の整理作業。分類番号に沿って並べかえました。 右：図書委員からのおすすめ本をゾウのPOPカードで紹介。図書館の入り口がとても明るくなりました。</p>
<p>鍮水中学校</p>			<p>左：図書委員と図書ボランティアさんの協力ですべての書架の整備作業中。利用しやすい図書館へ。 右：季節のおすすめコーナー。ボランティアさんの作った季節感のあるPOPカードを添えて紹介。</p>
<p>上柚木中学校</p>			<p>左：週2日の放課後開館を知らせる掲示。学習で来室する生徒も気軽に本に親しめます。 右：以前は百科事典が並んでいましたが、入口正面の目を留めやすい場所なので、新着図書コーナーに模様替え。</p>
<p>平成二十三年度までの重点校指定が終わった学校への訪問支援</p>	<p>下柚木小学校、第七小(7月) 由井二小、檜原中(8月) 陶鎔小(9月) 清水小(10月) 第十小、緑が丘小、横山第一小(12月) 上壱分方小(2月)</p>	<p>第七小 読み聞かせ講習</p>	<p>清水小 修理講習</p>

本が好き！



このコーナーでは本の紹介をしています。
今回は、八王子の郷土に関する資料を紹介します。



表紙画像の利用は出版社の許諾済です



	<p>『八王子のむかしばなし』 菊池正 監修／八王子市企画部広報課企画室 編 昭和56年から約10年にわたって、市のテレホンサービスで提供された昔話の中から選んだ30話。児童文学者であり民俗学者でもあった菊池正さんが市内を巡り歩いて集めたお話ばかりです。子どもたちに語り伝えたいですね。</p>		<p>『一郎と八ばあちゃん』 -知ることは 好きになること- 菊池澄子 作／石井宏直 絵 かたくら書店 八王子の由来や歴史、八王子織物、戦前、戦争中の様子、戦後の新しい町づくりまで、八ばあちゃんが、孫の一郎とやり取りをしながら、やさしい言葉で語りかけます。</p>
	<p>『松姫ものがたり』(紙芝居) 菊池正 作 八王子市郷土資料館ガイドボランティアの皆さん手作りの紙芝居です。戦国の世という激動の時代に生まれ、運命に翻弄(ほんろう)されながらも、強く生きた松姫の一生を描いています。 郷土資料館へ申し込めば無料で借りることができます。</p>		<p>『八人の王子さま 八王子地名ものがたり』 くだらやすし 作／長谷川道子 絵／清水工房 八王子の地名の由来はなんだろう？八人の王子様って本当にいたのかな？地名の由来については諸説色々ありますが、これはその中の一つをもとに書かれた創作童話です。親子で楽しめます。</p>

図書館へGO！ 《委員会活動（中学校編）》



■数少ない活動のチャンスを生かして

とにかく中学校は生徒も先生も忙しい、というのが実情のようです。いきおい図書委員会の活動時間も制約を受けざるをえません。休み時間や放課後の開館業務は常時の当番活動ですから、比較的確実にこなすことも可能でしょう。しかし、たとえば図書館便り発行などの広報活動や図書館の大きな整備作業となると、なかなか片手間ではできないことだと思います。

■潜在能力を引き出す

一方、中学生ともなればひとたび活躍の場を与えられると、驚くべき能力を発揮するものです。

別所中学校では、学年集会の場を利用した「リレーブックトーク」に取り組みました。2年生の図書委員8名が友情や部活をテーマにした本をリレー形式で紹介するのです。

本の読み込みから原稿作成、発表リハーサルと顧問の先生の指導を受けながら当日に臨みました。図書委員ならではの真価発揮に、クラスメイトも貴重な読書案内の機会を得たということでした。



リレーブックトークの
リハーサル中
別所中

■図書ボランティアとの協働を視野に

中学校では図書委員と図書ボランティアとの協働活動の取り組みが多いようです。**横川中学校**では夏休みを含んで6月から9月までの長期間にわたり、図書室の大改造に取り組みました。図書委員と生徒ボランティアが、先生やPTAの皆さんとともに汗を流したおかげで、見違えるような図書館が実現しました。大人とともにする活動は中学生の自立心と責任感を刺激し、委員会活動としても意義深いものだと、その意欲的な姿を見てあらためて思いました。

平成24年度第4号
3月1日発行
(通巻12号)

八王子市教育センター 学校図書館担当
連絡先 電話 042-664-1135 / FAX 042-662-2988
住所 八王子市散田町 2-37-1
教育センター e-mail: b300700@city.hachioji.tokyo.jp